

TYPE OF INDUSTRY

情報通信研究機構

NICT 先端研究

(228)

オンライン会議やライブ配信などのさまざまな通信サービスでは、膨大な情報がネットワーク内の通信機器を通過する。従来、ファイアウォールやルーターなどの通信機器には専用のハードウェア

が用いられていた。近頃は管理工数の削減などに効果的で、一部の通信事業者でも実際に運用されている機能が実行される。また、NFV（ネットワーク機能仮想化）が広く使われるようになり、NFVを発展させたネットワークサービス仮想化（NFV-ISO）が研究されている。これらは、コストや運用技術は、コストや運用

通信網をソフトウェア化

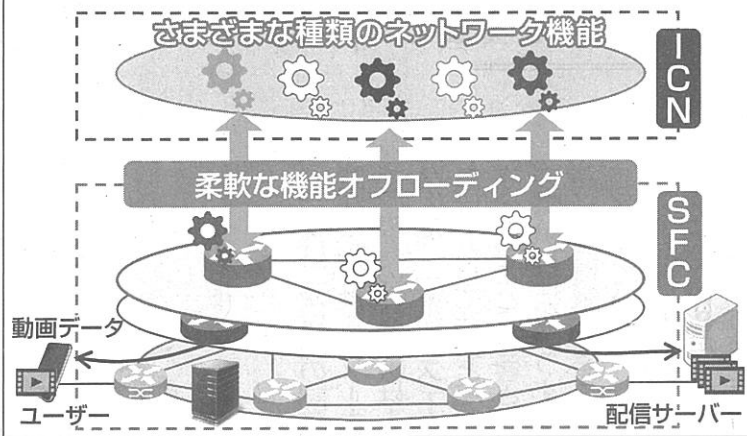
ネットワーク研究所 ネットワークアーキテクチャ研究室 速水 祐作

2019年関西大学大学院理工学研究科博士後期課程修了。同年、NICT入所。コンピュータネットワーク、情報指向ネットワーク、トラフィック制御、ネットワーク仮想化に関する研究に従事。博士（工学）。



科学技術・大学

ネットワークソフトウェア化の仕組み



仮想モバイル端末が提案するオフロードを同時に視聴する環境も、提案システムにより柔軟な機能オフローディングが働き、各端末が必要なネットワーク機能を利用しつつ安定的に高品質の動画を視聴できることを示した。今後は、資源利用率の最適化や、ユーザーが体感する通信品質、省エネなどの観点で、提案システムの有効性検証を行う予定である。ネットワーク仮想化の限界を乗り越えて、どこまでネットワークがソフトウェア化されて柔軟になれるか、これからの探究していきたい。

（火曜日に掲載）